

公園の風景

= ハッピーなカイツブリ =

淡水池で楽しげに遊ぶカイツブリのヒナたち。今年、カイツブリの親たちは多難でした。最初作った巣は6月の降雨で浸水、水没。7月に入り再び作った巣はミシシippアカミミガメに不法占拠され「何てことを」と悲嘆に暮れながら撤退。それでもめげずに8月に3度目の巣を作り、9月にめでたく3羽のヒナが孵化しました。なぜか現在2羽しか確認できませんが、いま淡水池で遊ぶこの子たちは、努力家の親の下に生まれたハッピーな子どもたちなのです。



= 便利なツユクサの受粉 =

通称トンボロードにツユクサの青い花がたくさん咲いている。青い花は受粉媒体となる昆虫が来ないと聞いているのに、毎年絶えることなく咲くこの花が不思議だった。調べてみるとツユクサは80%以上が自家受粉で開花するとあった。朝夕の花ピラの開閉によって自家受粉するが、たまに気まぐれな昆虫による他家受粉も行われる。ツユクサは便利な受粉の仕組みを持っていることに脱帽。因みに昆虫の視覚は人と違い、人に青く見える色が必ずしも昆虫にも青く見えるわけでは無いらしい。どんな色に見えるかは各々の昆虫に聞いてみないと良くわからない。

= ホウロクシギさん お久しぶり =



9月18日、ホウロクシギが久々に来園。シベリアか中国東北部から南の国への旅の途中、羽を休めに寄ったものと思われる。ホウロクシギは日本で見られるシギのうち最も大きいもので、干潟でカニやゴカイを捕食する。この日は2羽確認され、いずれも今春生まれたと思われる幼鳥であった。トレードマークの嘴がまだ短めで、曲がりも少ないこの若いシギが長い旅をするのかと思うと自然の厳しさを痛感する。干潟の減少で彼らも絶滅の危機にさらされている昨今だが、来春、北へ帰るときに立派な若鳥と

なって公園にまた立ち寄ってくれるといいなあと思う。